

**TOSHIBA**

取扱説明書

# e-BRIDGE ID Gate

---

## KP-2008

- このたびは弊社製品をお買い上げいただきましてまことにありがとうございます。
- お使いになる前に取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は必ず保管してください。



# 目次

---

<b>はじめに</b> .....	<b>5</b>
e-BRIDGE ID Gateの特長 .....	5
本書の読みかた .....	5
<b>e-BRIDGE ID Gateの使いかた</b> .....	<b>7</b>
複合機にログインする .....	7
<b>ご利用前の各種設定</b> .....	<b>9</b>
LDAPサーバーの設定 .....	9
ユーザ認証を有効にする .....	9
e-BRIDGE ID Gate 取り付けと設定 .....	10
認証用LDAPサーバーを指定する .....	16
PINコード認証を必須にする .....	17
NFC 機能を設定する .....	17
<b>故障かな？と思ったら</b> .....	<b>21</b>



# はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。この「取扱説明書」は、e-BRIDGE ID Gateの正しい使いかたや、設定の方法、機器に不具合が起きたときの処置のしかたなどについて説明しています。

e-BRIDGE ID Gateの機能を十分理解され、有効にご活用いただきますよう、ご使用前に「取扱説明書」をよくお読みください。また、この「取扱説明書」はお手元に置いて、大切に保管してください。

## ■ e-BRIDGE ID Gateの特長

本製品は、ソニー株式会社のFeliCa技術/NXPセミコンダクターズのMIFARE技術/HID GlobalのiCLASS技術を利用した非接触ICカードを読むことおよび、非接触の近距離無線通信技術であるNFC機能を搭載したAndroid端末と通信することができるカードリーダーです。登録された正しいICカード、またはNFCに対応したAndroid端末をリーダーにタッチするだけで、サーバーに認証され、複合機が利用可能となります。

電波法に基づく型式指定を受けた誘導式読み書き通信設備です。使用周波数は、13.56MHz帯です。本機を分解、改造したり、裏面の型式番号を消すと、法律により罰せられることがあります。周囲に複数のリーダー／ライタをご使用の場合、1 m以上間隔を空けてお使いください。また、他の同一周波数帯を使用の無線機が近くにないことを確認してお使いください。

## ■ 本書の読みかた

### □ 本文中の記号について

本書では、重要事項には以下の記号を付けて説明しています。これらの内容については必ずお読みください。



**警告**

「誤った取り扱いをすると人が死亡する、または重傷\*1を負う可能性があること」を示しています。



**注意**

「誤った取り扱いをすると人が傷害\*2を負う可能性、または物的損害\*3のみが発生する可能性があること」を示しています。

**注意**

操作するうえでご注意いただきたい事柄を示しています。

**補足**

操作の参考となる事柄や、知っておいていただきたいことを示しています。



関連事項を説明しているページを示しています。必要に応じて参照してください。

\*1 重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものを指します。

\*2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電を指します。

\*3 物的損害とは、財産・資材の破損にかかわる拡大損害を指します。

---

## □ 商標について

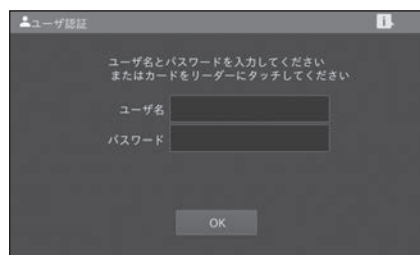
- FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- MIFAREは、Royal Philips Electronics（現NXPセミコンダクターズ）が開発した非接触ICカードの技術方式です。MIFAREは、NXPセミコンダクターズの登録商標です。
- iCLASSは、HID Globalが開発した非接触ICカードの技術方式です。HID、iCLASSはHID Globalの商標または登録商標です。
- NFC ForumとNFC Forumのロゴは、Near Field Communication Forumの商標です。
- MS、Microsoft、Windows、Windows NT、MS-DOS は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。その他、本書中に使用している会社名および製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

# e-BRIDGE ID Gateの使いかた

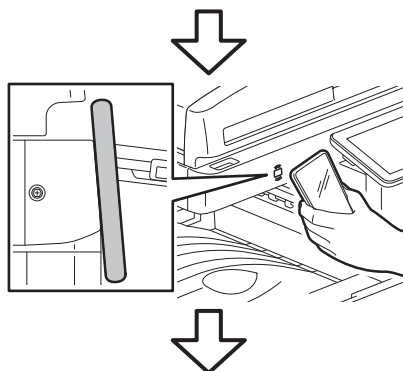
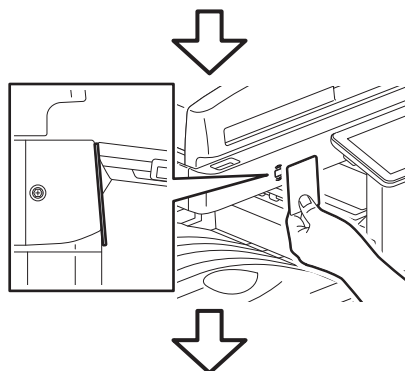
## ■ 複合機にログインする

e-BRIDGE ID Gateの向きに合わせて、ICカードをタッチしてください。NFCに対応したAndroid端末を認証に使用する場合は、Android端末のNFCが搭載されている場所をタッチしてください。認証されると「ピッ」と音がして、複合機が使用可能となります。

ICカードを使用する場合



Android端末を使用する場合





### 注意

e-BRIDGE ID GateにICカードを接触させたままにしないでください。

---

## 補足

- ICカードで認証され、複合機が使用可能となっても、スキャンデータをファイル転送する機能がご利用になれない場合があります。（ネットワーク上の共有フォルダがパスワードで保護されている場合など。）その場合、テンプレートとして登録していただくことで、この機能を使用できるようになります。詳しくは、**テンプレートガイド**をご参照ください。
- ICカードによる認証時に、PINコードの入力を必須に設定している場合は、e-BRIDGE ID GateにICカードをタッチした後に、PINコード入力画面が表示されるので、PINコードを入力してください（PINコード入力に対応している機種のみ）。PINコード入力を必須にする設定については、 P.17 「PINコード認証を必須にする」を参照してください。またPINコードの設定方法については、**TopAccessガイド**を参照してください。
- 認証画面は、ICカードやAndroid端末向けの画面に変更できます。TopAccessの [管理者] タブ - [セキュリティ] メニュー - [認証] サブメニュー - [ユーザ認証設定] - [専用画面表示を有効にする] で設定してください。
- Android端末を認証に使用するためには、NFC機能の設定が必要です。詳しくは、 P.17 「NFC 機能を設定する」を参照してください。



## ご利用前の各種設定

---

e-BRIDGE ID Gateを導入される際には、以下の設定が必要です。設定には、ネットワーク管理者の権限およびLDAPサーバーの設定や、ICカード内の識別情報についての知識が必要となります。

### ■ LDAPサーバーの設定

#### LDAPサーバーを使ったICカード認証を、はじめて運用される場合

LDAPサーバーに以下のスキーマを登録してください。

OID	1.3.6.1.4.1.1129.2.100.2.1 *1
属性名(Attribute Name)	eBMUserCard *2
属性値の型 (Attribute Type/Syntax)	Unicode stringやCase Insensitive stringなど、 お使いの環境に応じた文字コードを設定してください。
最大属性値長(Max)	256バイト（16バイトのみ使用します）

\*1 弊社固有のOIDです。

\*2 各ユーザのeBMUserCard属性には、カード情報を入力する必要があります。

各ユーザの属性（Attribute）には、それぞれ独自のカード情報を登録する必要があります。

#### すでにLDAPサーバーを使ったICカード認証が運用されている場合

ICカード認証に使用している属性名を、弊社サービスエンジニアにお知らせください。

お使いの機種によっては、カードの属性名をTopAccessから設定できます。詳しくはサービスエンジニアにお問い合わせください。

### ■ ユーザ認証を有効にする

#### TopAccessでユーザ認証を有効にします。

- ・ ユーザ認証が有効になっている場合には、この手順は不要です。
- ・ Windows ドメイン認証・LDAP認証を使用する場合は、1つ目に登録したドメインが使用されます。

---

## ■ e-BRIDGE ID Gate 取り付けと設定

e-BRIDGE ID Gateの取り付けは、弊社サービスエンジニアが実施いたします。取り付け終了後、本体の設定を行います。

### 補足

すでにICカード認証が運用されていて、認証用IDにIDm（FeliCaの場合）を使用する場合は、📖 P.16 「認証用LDAPサーバーを指定する」に進んでください。

### □ FeliCaをご利用になる場合

#### 認証用IDとして使用する情報種類の選択

認証用IDとして、以下のどちらの情報を使用するかを選択してください。

入力はサービスエンジニアが実施いたします。

**カードに格納されているユーザ情報の中の、ユーザを識別するのに適切な文字列を使用する**

すでにICカード認証が運用されていて、認証用IDとしてユーザ情報が使用されている場合は、そのシステムとの整合性を保つために、こちらを選択してください。

**IDm（カード固有のID番号）を使用する**

すでにICカード認証が運用されていて、認証用IDとしてIDmを使用している場合は、IDmを使用してください。

#### システムコード、サービスコードの入力

システムコード（16進数4桁）やサービスコード（16進数4桁）を入力します。2回入力し、1回目と2回目の値が一致すると、入力完了となります。

### 注意

- この情報はお客様のセキュリティにかかわる大切な情報ですので、入力はお客様にお願いしております。情報の漏えいを防ぐため、入力中の画面や動作を、他の人に見られないように注意して入力してください。
- お客様が運用されているカードがシステムコードでの認証に適していない場合は、システムコードの代わりに“FFFF”を入力することで、システムコードでの認証を行わないように設定することが可能です。  
システムコードでの認証を無効にすると、偽造されたカードで本機にログインされ、本機の機能を不正に使用されるリスクが高くなります。リスクについて十分ご理解のうえで設定してください。

#### 複合機での入力方法

アルファベットと数字をタッチパネルから入力します。

---

## 認証用IDとして、ユーザ情報を使用する場合

---

- 1 システムコードとサービスコードの両方を入力します。システムコードとサービスコードは続けて入力してください。  
入力終了後、タッチパネルの [OK] を押します。
- 2 次に2回目の入力を行います。  
入力終了後、タッチパネルの [OK] を押します。
- 3 入力画面が消えたのを確認したのち、サービスエンジニアにお声をおかけください。

---

## 認証用IDとして、IDmを使用する場合

---

- 1 システムコードのみを入力します。システムコードに続けて“0000”と入力してください。  
入力手順は、P.11 「認証用IDとして、ユーザ情報を使用する場合」と同様です。

### 認証用IDとして使用するユーザ情報の入力

認証IDとして使用するユーザ情報が格納されているエリアの、開始位置および終了位置を入力します。エリアは2か所まで指定することが可能です。  
システムコードやサービスコードと同様に入力してください。2回入力し、1回目と2回目の値が一致すると、入力完了となります。

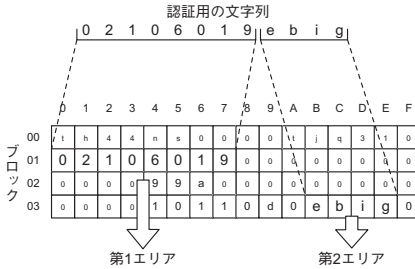
#### 注意

- 認証用IDとしてIDmを使用する場合には、この手順は不要です。
- この情報はお客様のセキュリティにかかわる大切な情報ですので、入力はお客様にお願いしております。情報の漏えいを防ぐため、入力中の画面や動作を、他の人に見られないように注意して入力してください。

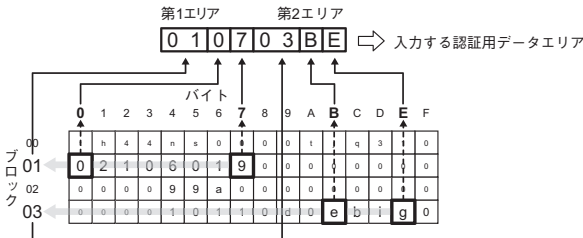
(例)

「従業員番号」(数値8桁)と「部課略称」(英字4桁)の組み合わせを、認証用IDとして使用する場合

- 使用する文字列の位置を特定します。



- 各エリアが格納されているブロック、開始バイトおよび終了バイトを、16進数に置き換えます。



## 1 2つのエリアに格納されている文字列を結合して使用する場合には、2つのエリアの位置情報を続けて入力してください。

入力終了後、タッチパネルの [OK] を押します。

エリアが1か所の場合は、第2エリアの位置情報の代わりに“FFFF”と入力してください。

例：0107FFFF

## 2 次に2回目の入力を行います。

入力終了後、タッチパネルの [OK] を押します。

## 3 入力画面が消えたのを確認したのち、サービスエンジニアにお声をおかけください。

## □ MIFAREをご利用になる場合

### キー情報とセクタ番号の入力

キー情報（4桁）やセクタ番号（16進数4桁）を入力します。2回入力し、1回目と2回目の値が一致すると、入力完了となります。

#### 注意

この情報はお客様のセキュリティにかかわる大切な情報ですので、入力はお客様にお願いしております。情報の漏えいを防ぐため、入力中の画面や動作を、他の人に見られないように注意して入力してください。

### 東芝デジタル複合機での入力方法

アルファベットと数字をタッチパネルから入力します。

例) セクタ番号27を使用する場合

Aキー：0000001B

Bキー：0001001B

セクタ番号は以下の表をご覧ください。10進数の値を16進数に置き換えてください。

		セクタ番号																
		0 0 1 B																
		1の位																
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F	
10 の 位	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
	2	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	3	32	33	34	35	36	37	38	39									

## 認証用IDとして、ユーザ情報を使用する場合

- 1 キー情報とセクタ番号の両方を入力します。キー情報とセクタ番号は続けて入力してください。  
入力終了後、タッチパネルの [OK] ボタンを押します。
- 2 次に2回目の入力を行います。  
入力終了後、タッチパネルの [OK] ボタンを押します。
- 3 入力画面が消えたのを確認したのち、サービスエンジニアにお声をおかけください。

## 認証用IDとして使用するデータエリア位置情報の入力

認証IDとして使用するユーザ情報が格納されているエリアの、開始位置および終了位置を入力します。エリアは2か所まで指定することが可能です。

キー情報やセクタ番号と同様に、タッチパネルとテンキーを使用して入力してください。2回入力し、1回目と2回目の値が一致すると、入力完了となります。

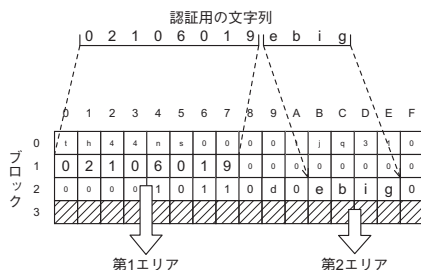
### 注意

この情報はお客様のセキュリティにかかわる大切な情報ですので、入力はお客様にお願いしております。情報の漏えいを防ぐため、入力中の画面や動作を、他の人に見られないように注意して入力してください。

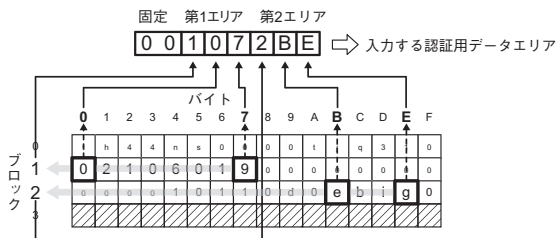
(例)

「従業員番号」(数値8桁)と「部課略称」(英字4桁)の組み合わせを、認証用IDとして使用する場合

- 使用する文字列の位置を特定します。  
例) セクタ内に収録されている「02106019ebig」を認証用IDとします。



- 各エリアが格納されているブロック、開始バイトおよび終了バイトを、16進数に置き換えます。



### 注意

第1エリアと第2エリアは16バイト以内にする必要があります。

---

# 1 2つのエリアに格納されている文字列を結合して使用する場合には、2つのエリアの位置情報を続けて入力してください。

入力終了後、タッチパネルの [OK] ボタンを押します。

エリアが1か所の場合は、第2エリアの位置情報の代わりに"FFF"と入力してください。

例：00107FFF

# 2 次に2回目の入力を行います。

入力終了後、タッチパネルの [OK] ボタンを押します。

# 3 入力画面が消えたのを確認したのち、サービスエンジニアにお声をおかけください。

## 暗号キーの入力

暗号キー（16進数12桁）を入力します。暗号キーは、📖 P.13 「キー情報とセクタ番号の入力」で入力したキー情報（AキーまたはBキー）に対応する値を入力してください。2回入力し、1回目と2回目の値が一致すると、入力完了となります。

### 注意

この情報はお客様のセキュリティにかかわる大切な情報ですので、入力はお客様にお願いしております。情報の漏えいを防ぐため、入力中の画面や動作を、他の人に見られないように注意して入力してください。

（例）

Bキーの暗号キー「00 00 98 2F 6E CD BF 16」

# 1 暗号キーを入力します。

入力終了後、タッチパネルの [OK] ボタンを押します。

# 2 次に2回目の入力を行います。

入力終了後、タッチパネルの [OK] ボタンを押します。

# 3 入力画面が消えたのを確認したのち、サービスエンジニアにお声をおかけください。

## □ HIDをご利用になる場合

カード固有番号（CSN）が、認証用IDとなります。本体の設定は弊社サービスエンジニアが実施いたします。

## ■ 認証用LDAPサーバーを指定する

e-BRIDGE ID Gateを運用開始するために、TopAccessに管理者権限でログインし、認証用LDAPサーバーの指定を行います。

TopAccessの操作方法は、**TopAccessガイド**を参照してください。

### TopAccess画面右上に【ログイン】が表示される機種

([ユーザ認証設定]が“無効”の状態、TopAccessにアクセスした場合)



### (ログイン) - 【管理者】タブ - 【セキュリティ】メニュー - 【認証】サブメニュー - 【ユーザ認証設定】

[認証種別]項目で、“LDAP認証”または“Windowsドメイン認証”を選択してから、[カード認証設定]項目で、ICカード認証を行うLDAPサーバーを設定します。

#### 補 足

- [カード認証設定]に表示されるLDAPサーバーの一覧表に、[属性名(カード情報)]欄がある場合は、カードの属性名を変更することができます。LDAPサーバーごとにカードの属性名を設定できますので、必要に応じて変更してください。
- [ユーザ情報を自動的に作成する]が有効の場合、PINコード認証またはICカード認証を行うLDAPサーバーとして [Windowsサーバ] を選択すると、以下の属性名のユーザ名が使われます。
  - LDAPサーバーにKerberosで接続している場合 : sAMAccountName
  - LDAPサーバーにDigest-MD5、CRAM-MD5、Login、Plain、Simple Bindで接続している場合 : displayName
- お使いの複合機に、[ユーザ認証時にパスワードやカード情報などをキャッシュに保存し、認証サーバ障害発生時に、保存された情報を使用して認証を行う]設定がある場合は、[Windowsドメイン/LDAP認証時も有効となるローカルユーザを登録する]にチェックを入れたユーザのカード情報を、TopAccessから入力することができます。[ユーザ情報作成]画面の[カード情報]に、認証用のIDを入力してください。



---

## ■ PINコード認証を必須にする

ICカードによる認証時にPINコードの入力もさせることでセキュリティレベルを上げることができます。[ユーザ管理設定] - [カード認証設定] - [PINコード入力を必須にする] にチェックを入れます。(あらかじめ、[ユーザ管理設定] - [PINコード認証設定] - [PINコード認証] を“有効”に設定しておいてください。)

### 補足

この機能は、PINコード入力に対応している複合機でのみ使用可能です。

## ■ NFC 機能を設定する

e-BRIDGE ID Gate は、NFC に対応したAndroid 端末をかんとんに接続および認証することができます。

### 補足

- NFC機能をご利用いただく際には、弊社サービスエンジニアにお問い合わせください。
- NFC機能をご利用いただくためにはAndroid端末に専用のアプリケーション (e-BRIDGE Print & Capture) をインストールしてください。
- アプリケーションの操作についてはアプリケーションの指示に従ってください。
- 使用時は、e-BRIDGE ID Gateの向きに合わせて、Android端末のNFCが搭載されている場所をタッチしてください。その際、「ピッ」という音が鳴るまでその状態を維持してください。
- 複合機がAndroid端末を検出できない場合は、いったんAndroid端末を複合機から離し、少し待ってから再度タッチしてください。
- Android端末のカバーケースにより、複合機が端末を検出できない場合があります。その場合はカバーケースを取り外してください。
- お使いのAndroid端末によっては、複合機で使用できないことがあります。
- Android10以降では、ハンドオーバー機能は使用できません。

## □ モバイル認証を設定する

NFCに対応したAndroid端末を認証に使用するために、モバイル認証を有効に設定します。この設定は、タッチパネルまたはTopAccessから設定できます。

### タッチパネルから設定する

- 1 ホーム画面の【設定登録- ユーザ-】を押した後に、【管理者設定】タブを押して管理者設定メニューに入ります。

#### 補足

管理者設定メニューを表示する手順の詳細は、[設定管理ガイド](#)を参照してください。

- 2 【NFC設定】を押します。



- 3 【モバイル認証】設定の【有効】を選択し、【OK】を押します。



## TopAccessから設定する

TopAccess

装置 | ジョブ | ログ | 登録 | カウンタ | ユーザ管理 | 管理者

セットアップ | セキュリティ | 設定 | 登録 | AirPrint | アプリケーション | ライセンス

セキュリティ

設定 | 証明書管理 | パスワードポリシー | セキュリティスキャン

保存 | キャンセル

ユーザ認証設定

ユーザ認証 有効

権能別ユーザ認証設定 有効

ゴビ 有効

ファクス 有効

プリント 有効

スキャン 有効

リスト 有効

設定/登録 有効

EWB 有効

管理者の認証方法 ユーザ名とパスワード

認証失敗時の印刷ジョブ/Raw印刷ジョブ 削除

ログインによりジョブを自動リリースする 無効

プロジェクト管理 無効

印刷ジョブ(プロジェクトコードを持たない) ホールド印刷

印刷ごとに、ユーザ認証のためのIDとパスワードを入力する  
\*この機能を有効にすると、Windows以外のクライアントから印刷できなくなります。

モバイル認証 有効

ログインユーザの自動切替 有効

(ログイン) - [管理者] タブ - [セキュリティ] メニュー - [認証] サブメニュー - [ユーザ認証設定]

[モバイル認証] を [有効] に設定します。

### □ ハンドオーバーを設定する

NFCに対応したAndroid端末を複合機に接続して印刷/スキャンを行うために、インフラストラクチャまたはWi-Fi Directに切り替えて通信する、ハンドオーバーの設定を有効にします。

タッチパネルから、設定登録- ユーザ- > 管理者設定 > NFC設定、の順に進み、[ハンドオーバー] 項目で以下の設定を行います。

項目名	機能説明
インフラストラクチャ	インフラストラクチャで接続して使用する場合は、有効を選択します。
Wi-Fi Direct	Wi-Fi Directで接続して使用する場合は、有効を選択します。



### 補 足

- 管理者設定メニューを表示する手順の詳細は、**設定管理ガイド**を参照してください。
- ハンドオーバーを使用するためには、複合機に無線LAN/Bluetooth モジュールが装着され、InfrastructureまたはWi-Fi Directが有効に設定されている必要があります。設定方法は、**設定管理ガイド**を参照してください。

## 故障かな？と思ったら

---

- カード認証設定、NFC設定は有効になっていますか？
  - タッチパネルまたはTopAccessで確認してください。
- ICカード認証用サーバーがLDAPサーバーに設定されていますか？
  - TopAccessで確認してください。
- LDAPサーバーの設定は正しいですか？
- ICカード/Android端末を適正な位置まで近づけていますか？
  - ICカード/Android端末とe-BRIDGE ID Gateとの間が5 mm以上離れていると、認識しないことがあります。
- ICカード/Android端末をタッチする時間が短すぎませんか？
- ICカードは壊れていませんか？
  - 他のICカードを使用して確認してください。
- LANケーブルの接続を確認してください。
- ICカードのユーザがLDAPサーバーに登録されていないか、または同じ認証用IDで複数のユーザが登録されています。LDAPサーバーの登録内容を確認してください。
- 複合機に登録されていないカードフォーマットのICカードを使用している場合は、登録されているフォーマットのICカードを使用してください。

これらを確認後もe-BRIDGE ID Gateが正常にICカードおよびAndroid端末を認識しない場合には、弊社サービスエンジニアまでご連絡ください。

### 商品に関するお問い合わせは

#### 東芝テック コンタクトデスク

電話： 0120-201877

受付時間： 9：00～12：00、13：00～17：00

(土・日・祝祭日および年末年始、弊社休業日を除く)





取扱説明書  
e-BRIDGE ID Gate  
KP-2008

東芝テック株式会社

